

## 参考

以下、「哭奥州藤使君」全句の通釈を付す。

- 1 妻からの手紙では、君（藤原滋実）が死んだことを告げ、
- 2 （ことの）あらましは使いの者に託してきた。
- 3 病の原因はいやすこともできず
- 4 人の呪詛をうけて亡くなったと。
- 5 かつて私たちは同じ所で藏人として勤めていた。
- 6 だから彼の心の表裏はくまなく心得ているつもりだ。
- 7 君は真正直に過ぎるといふ欠点はあったが
- 8 曲がったことを正すということにかけては並ぶものがなかった。
- 9 （君は）さいはてにある東国最大の国、陸奥の  
国守となって赴いた。
- 10 氷雪を口に含んで渴をいやし、（口に巧言なく）
- 11 身には弓矢を帯びて警戒を怠らなかつた。（身を持つること厳正で不正を容赦しなかつた）
- 12 属官のなかには金銭によって今日の官位を買った徒輩が多かつたから、
- 13 君のことを骨の髄まで溶かさんばかりに悪く言っていた（しかし君は毅然として信条を貫いた）。
- 14 土地柄、産するのは粗悪な布なのであるが、それが租税として認められないものだから、